

6. どこが安全？ どこが危険？

1 子どもが被害者になる犯罪の主なケースと対応策①

こういうときは、こうする」というパターンをある程度覚えさせましょう。

通学路・近所・遊び場

子どもたちだけになりがちな場所は犯罪が起こり易い傾向があります。特に一人で歩くことの多い「路上」や、遊びに夢中で注意力が散漫になりがちな「公園」は注意が必要です。

●公園

事例 樹木の陰やトイレなどに連れ込まれる。

対応策

- ・公園での一人遊びはさせないようにする。
- ・友達と離れて遊ばないようにする。
- ・トイレには、友達と一緒に行かせる。

●路上

事例 「ゲームをしよう」「探し物を見つけて」「困っているから助けて」「好きなものを買ってあげるから」など、言葉巧みに話しかけ、どこかへ連れ去る。

対応策

- ・日頃から知らない人にはついていかせない。知っている人でも「家の人に聞いてから」と言うようにさせる。
- ・名前入りの学校用具を持っていると「○○ちゃん」と声をかけられるので注意が必要。

事例 車から声を掛けて、近づいた瞬間にドアを開けて車内に引っ張り込む。

対応策

- ・車から声を掛けられたら、両手を広げた幅以上の距離まで、車から離れるようにする。

事例 路地や死角につれて行かれ、暴行や恐喝を受ける。

対応策

- ・普段から親子で危険箇所のチェックをし、該当する場所には行かせない。
- ・連れて行かれそうになったら、大声で助けを呼ぶようにさせる。

(出典：「みんなで気をつけて事件をふせよう！」警察庁)

2 犯罪が発生する場所

就学別、場所別被害発生件数（平成20年）

子どもの就学別に、犯罪の被害に遭う割合が高い場所（その他を除く）について見てみると、未就学児童については、共同住宅、一戸建て及び道路上が高く、小学生、中学生については駐車（輪）場、道路上、共同住宅が高くなっている。（表1）

罪種別、被害別犯罪被害発生件数（平成20年）

罪種別に、子どもが被害に遭う割合が高い場所（その他を除く）について見てみると、強盗、暴行、傷害、恐喝、強制わいせつ、公然わいせつ、逮捕・監禁および略取・誘拐においては道路上、脅迫及び詐欺については一戸建て住宅、窃盗犯については駐車（輪）場が高くなっている。（表2）

(出典：警察庁統計)

6 どこが安全？ どこが危険？

1 犯罪が起きやすい場所

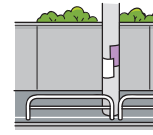
犯罪が起きやすい場所は、不審者が入っても怪しまれない施設や建物で、子どもが一人きりになっても周囲の大人の目につかない死角になる場所です。また落書きや廃品が散乱しているような場所も危険です。子どもたちが犯罪に遭遇する割合が一番高い場所が駐車場や駐輪場です。近年では駐車場の防犯対策の必要性が叫ばれ、多くの駐車場では防犯カメラや照明が取り付けられています。しかし、子どもはできるだけ近づかないことが無難です。道路上の犯罪も増加しています。声かけに始まり、ひったくりや通り魔、連れ去りなどの多くの犯罪は道路上で発生しています。このように子どもの遊び場でも路上駐車や落書きの多い公園、木や建物が近く見通しの悪い公園は犯罪が起きやすいため注意が必要です。



侵入が容易



周囲の関心が低い



死角がある

対応策

環境改善

- ・地域での清掃活動
- ・地域で改善できないものは行政に掛け合う

危険箇所の共通理解

- ・安全マップ作成などを通して子ども・保護者・学校・地域での情報共有

パトロール活動

- ・危険箇所の点検と重点的なパトロール

地域の危険箇所を確認、情報共有し、活動に生かしていこう

表1 就学別・場所別被害発生件数（平成20年）

注：「列車内」とは、地下鉄内、新幹線内及びその他の列車内とした。

区分	総数		少年										成人	
			未就学		小学生		中学生		その他					
	件数	(割合%)	件数	(割合%)	件数	(割合%)	件数	(割合%)	件数	(割合%)	件数	(割合%)	件数	(割合%)
被害総数	1,458,697	100.0	289,035	100.0	499	100.0	24,246	100.0	64,259	100.0	200,031	100.0	1,169,662	100.0
一戸建住宅	184,946	12.7	14,987	5.2	79	15.8	1,960	8.1	4,258	6.6	8,690	4.3	169,959	14.5
共同住宅	191,484	13.1	29,013	10.0	139	27.9	4,163	17.2	6,917	10.8	17,794	8.9	162,471	13.9
学校（幼稚園）	24,927	1.7	14,442	5.0	18	3.6	532	2.2	2,505	3.9	11,387	5.7	10,485	0.9
駐車（輪）場	483,262	33.1	132,087	45.7	22	4.4	8,405	34.7	28,192	43.9	95,458	47.7	351,175	30.0
道路上	219,929	15.1	50,744	17.6	47	9.4	4,272	17.6	11,832	18.4	34,593	17.3	169,185	14.5
都市公園	10,499	0.7	5,281	1.8	26	5.2	1,879	7.7	1,394	2.2	1,982	1.0	5,218	0.4
空き地	9,426	0.6	1,703	0.6	3	0.6	122	0.5	386	0.6	1,192	0.6	7,723	0.7
列車内	8,580	0.6	959	0.3	4	0.8	12	0.0	88	0.1	855	0.4	7,621	0.7
駅・鉄道施設	11,636	0.8	4,484	1.6	4	0.8	45	0.2	519	0.8	3,916	2.0	7,152	0.6
その他	314,008	21.5	35,335	12.2	157	31.5	2,856	11.8	8,168	12.7	24,154	12.1	278,673	23.8

表2 罪種別・場所別被害発生件数（平成20年）

注：「列車内」とは、地下鉄内、新幹線内及びその他の列車内とした。

区分	罪種	殺人	強盗	強姦	暴行	傷害	脅迫	恐喝	窃盗犯	詐欺	強制わいせつ	公然わいせつ	逮捕・監禁	略取・誘拐	その他	合計
被害総数		1,290	3,978	1,582	31,641	28,291	2,578	6,169	1,129,691	44,159	7,111	912	407	155	200,737	1,458,697
少年計		166	362	695	6,004	5,516	310	2,613	250,179	1,539	3,691	428	114	111	17,307	289,035
一戸建住宅		47	8	66	153	218	85	74	13,121	690	186	2	7	7	323	14,987
共同住宅		59	36	182	449	440	65	116	25,218	346	603	22	24	11	1,442	29,013
学校（幼稚園）		3	4	20	150	569	16	94	13,112	28	64	7	2	3	370	14,442
駐車（輪）場		5	27	67	422	585	16	399	123,528	28	207	22	12	5	6,764	132,087
道路上		19	186	87	3,044	1,730	64	1,052	37,192	70	1,510	269	30	57	5,434	50,744
都市公園		5	11	28	304	613	14	227	3,427	7	171	16	2	4	452	5,281
空き地		3	3	21	33	76	1	22	1,055	0	40	2	0	1	446	1,703
列車内		0	2	0	105	35	2	4	453	1	259	15	0	0	82	959
駅・鉄道施設		0	2	7	281	118	2	76	3,685	24	59	13	1	1	215	4,484
その他		25	83	217	1,083	1,132	45	549	29,388	345	592	80	36	22	1,778	35,335

- 規準表（12a） 自分の住んでいる地域の特性を把握している。
 (23b) 建物の種類や特性に応じた対策を理解し説明できる。
 (24b) 地域の地理などの特性を理解し、防犯のポイントが説明できる。
- ねらい
- ③ 地域において犯罪が起こりやすい場所を具体的に把握している。
 - ④ 地域の危険な場所と安全な場所を具体的に把握している。
 - ③ エレベーターの安全な乗り方について説明できる。
 - ③ 駐車場や空き地・資材置き場などでの安全確保について説明できる。
 - ④ 公園やその他の遊び場で注意するポイントについて具体的に指導できる。
 - ⑥ 「危険な道」について具体的に説明できる。

6

エレベーターや公衆トイレの危険性 3

エレベーターや公衆トイレも犯罪の多い場所です。最近では日常的にエレベーターを使用する子どもも増えています。エレベーターの中で子どもが被害に遭う犯罪の窓口は、扉が閉まる直前にエレベーターに乗り込み、子どもの口をふさいで抱きつき、わいせつ行為をするというものが多く見られます。防犯のために、屋間でも子どもだけでエレベーターに乗せることは避けた方がよいでしょう。やむを得ずに子どもだけで乗せる場合には、乗り込む前に十分に周囲の安全を確認するようにして、知らない人と二人だけにならないように注意し、二人きりになったらすぐに降りるようにします。また万が一に備えて目頃から各階ボタンの近くに壁を背にして乗るような習慣をつけておくとよいでしょう。

またトイレは世界的にも犯罪の多い場所で、防犯のために公衆トイレを設置しない国もあるほどです。トイレは密室になりやすく、助けを求めにくい場所です。これまでも子どもが公衆トイレに連れ込まれて起こる犯罪が多く発生しています。保護者は必ずトイレへ一緒についていき、個室の前で待つようにします。また子どもだけにいる時には友達と一緒に行き、決して一人で行かないような習慣をつけさせましょう。



ビデオ教材（ビデオ→ どこが安全？どこが危険？）
 ※関連するビデオを見て理解を深めてみましょう。

■つかんでおこう！
 多层次的防犯指導支援システムなどを利用し、自分の地域ではどのような場所に注意すべきか確認してみましょう。

Column
 危険な場所で被害にあったら
 日常生活のなかで、子どもたちは危険な場所を通らなければいけない状況におかれることもあります。仮にそこに近づいて、被害に遭ってしまった場合でも、子どもを責めず、話を聞いてあげようようにしましょう。

3 子どもが被害者になる犯罪の主なケースと対応策②

●エレベーター

事例 エレベーターに乗っている時に体を触られた。

- 対応策**
- ・エレベーターに知らない人と二人で乗せない。
 - ・万一、一人で乗っているときに知らない人が乗ってきたら、すぐ近くの階で降りる。
 - ・エレベーターは、各階のボタンを押せる位置に、壁を背にして乗るようにさせる。

●階段、踊り場、屋上

事例 階段・踊り場・屋上で遊んでいたところ、手を引っ張られ物陰に連れて行かれた。

- 対応策**
- ・階段・踊り場・屋上では一人で遊ばない。
 - ・手を引かれたら大きな声で助けを呼ぶ。

●駐輪場、駐車場

事例 自転車を置こうとしたとき、いきなり後ろから抱きつかれる。駐車している車のドアが開いて中に引っ張り込まれる。

- 対応策**
- ・自転車を置く前に、周囲の確認を習慣づける。
 - ・万一の場合は、大声を出して助けを呼ぶ。

（出典：「みんなで気をつけて事件をふせよう！」警察庁）